

■日時：2019年3月22日（金）17:00-18:30

■場所：先端酵素学研究所 B棟 1F 交流ホール

生体分子間相互作用の 理解のための データ科学と 創薬基盤技術の開発

村上 洋一 博士

学校法人東京農業大学 東京情報大学総合情報学部総合情報学科
情報システム学系 ゲーム・アプリケーション研究室

本研究クラスターでは、がん発症進展機構の解明およびがんの創薬研究を推進している研究者を講師として招き、今後のがん医療についての理解を深めることを目指しています。今回は、学生時代に人工知能の一部である進化的アルゴリズムの基礎的理論を習得し、機械学習法の一つであるサポートベクターマシンの開発者が教授を勤める英国ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校に留学、その理論を学んだ後、さらに英国サセックス大学にて構造生命情報科学の理論や解析技術を習得、現在までに、Web上で利用可能な予測サーバを7件、他にも数多くの解析ソフトウェアを開発されている村上先生にご講演をいただきます。

■要旨■

実験から得られた生体分子の膨大かつ多様なデータがデータベース化され、公開されている。それらのデータからコンピュータを用いて如何にして生命機能メカニズムを解き明かすための知識を発見するのか、そしてその知識から如何にして創薬研究に役立つ情報を得るのか。本セミナーでは、生体分子間相互作用に焦点を当てて、それに関する知識発見と、機械学習法を用いた応用例について紹介する。

本セミナーは大学院特別講義（医科学・栄養生命科学・口腔科学教育部）を兼ねています。大学院生、教員、学部学生等、興味を持つ全ての方のご来聴を歓迎致します。